

令和7年度アイヌ施策推進地域計画目標評価報告書

| | | |
|-------|---------------|--------|
| 実施主体名 | 計画の名称 | 目標年度 |
| 札幌市 | 札幌市アイヌ施策実施プラン | 令和10年度 |

1. 目標の達成状況

| アイヌ施策推進地域計画における目標 | 目標値(A) | 実績値(B) | 達成率(%) (B/A) | 備考 |
|------------------------|------------|------------|-----------------|----|
| 体験交流事業参加者数 | 125人/年間 | 153人/年間 | 122.4% | |
| 体験講座(市民)参加者数 | 240人/年間 | 204人/年間 | 85.0% | |
| アイヌ民族の歴史・文化等に関する講座参加者数 | 270人/年 | - | - | |
| 札幌市アイヌ文化交流センター来館者数 | 45,000人/年間 | 64,219人/年間 | 142.7% | |
| ウポポイ・ヒリカコタン周遊バスツアー参加者数 | 1,000人/年間 | 1,067人/年間 | 106.7% | |
| 体験プログラム参加学校数 | 130校/年間 | 146校/年間 | 112.3% | |
| アイヌ高齢者の知識・経験記録映像の利用者数 | 50人/年間 | 306人/年間 | 612.0% | |
| 共同利用館後継施設整備事業の進捗 | 基本設計の完了 | 基本設計の完了 | 完了 | |

| アイヌ施策推進地域計画における目標 | 達成状況 | 備考 |
|------------------------|--|----|
| 体験交流事業参加者数 | ○コロナ禍後最多となり、目標値を達成した(R4 104人、R5 102人、R6 113人)。 | |
| 体験講座(市民)参加者数 | ○目標値の達成には至らなかったものの、コロナ禍後は定員の9割程度で推移している。 | |
| アイヌ民族の歴史・文化等に関する講座参加者数 | ○R7年度は、講座の実施まで至らず、パネル展を開催するに留まった。 | |
| 札幌市アイヌ文化交流センター来館者数 | ○来館者はセンター開館以来最多の64,219人となり、目標値を達成した。 | |
| ウポポイ・ヒリカコタン周遊バスツアー参加者数 | ○定員を上回る応募があり、目標値を達成した。 | |
| 体験プログラム参加学校数 | ○来訪、出前ともに堅調に推移し、目標値を達成した。 | |
| アイヌ高齢者の知識・経験記録映像の利用者数 | ○R7.6.27に公開し306人の利用(公開したPDFへのアクセス数)があった。 | |
| 共同利用館後継施設整備事業の進捗 | ○基本設計を完了した。 | |

【札幌市アイヌ施策推進委員会委員による意見等】

- ・各実施団体の特色が反映されるよう、体験イベント等の内容決定時には、きめ細やかな調整を行うこと。
- ・歴史・文化等の理解促進については、パネル展示にとどまらず、直接学ぶことができる講座形式での実施を進めること。
- ・企業連携等を通じたブランド化を検討するとともに、それを生かしたPRコーナーの充実を図ること。

2. 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

(1) アイヌ文化の保存又は継承に資する事業

| 事業の進捗状況 | 事業実施主体 |
|---|--------|
| 体験交流事業(調理体験4回、民具づくり2回、子ども遊び2回)を実施した。 事業の実施に当たっては、アイヌ文化の担い手を育成する機会を創出するため、講師補助を設けて実施した。 | 札幌市 |
| 事業の効果 | |
| 体験交流事業参加者アンケート項目のうち「アイヌ民族やアイヌ文化についての理解が深まった」と回答した方が92%と高く、理解の促進につながった。 | |

(2) アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業

| 事業の進捗状況 | 事業実施主体 |
|---|--------|
| アイヌ文様刺繍や木彫、エコツアーなどの体験講座を、全16回開催した。 また、札幌市アイヌ文化交流センターにおいて、アイヌ文化を体験できるコーナーの運営や体験イベントを実施し、このうち体験イベントは過去最多となる20回を開催した。 | 札幌市 |
| 事業の効果 | |
| 市民が気軽にアイヌ民族の歴史や伝統文化に触れる機会を創出することで、アイヌの伝統等についての理解・関心の促進につながった。 | |

(3) 観光の振興その他の産業の振興に資する事業

| 事業の進捗状況 | 事業実施主体 |
|---|--------|
| 札幌市アイヌ文化交流センターの設備更新(交流ホールの音響機器更新、映像コンテンツの汎用化及び多言語化等)を実施したほか、庭園等の屋外改修計画を更新し、危険木等の伐採を行った。 ウホポイ・ヒリカコタン周遊バスツアーは、昨年と同程度の29回催行した。 | 札幌市 |
| 事業の効果 | |
| 交流ホールの音響機器更新により操作性が向上したほか、専用機器以外(サイネージ等)でのコンテンツ利用が可能になるなど、施設の魅力向上及び利用者の利便性向上につながった。 また、ウホポイ・ヒリカコタン周遊バスツアー参加者アンケート項目のうち、「アイヌ民族やアイヌ文化についての理解が深まった」と回答した方が97%と、理解の促進につながった。 | |

(4) 地域内若しくは地域間の交流及び国際交流の促進に資する事業

| 事業の進捗状況 | 事業実施主体 |
|----------------------------------|--------|
| 児童生徒を対象に、アイヌ伝統文化の体験プログラムを、延べ146校 | 札幌市 |

| | |
|--|--|
| <p>(札幌市アイヌ文化交流センターへの来訪87校、学校への出前59校)に提供した。</p> <p>アイヌ高齢者の知識・経験記録事業は、3名から対談形式で聞き取りを実施したほか、令和6年度にヒアリングした1名分をホームページで公開した。</p> <p>共同利用館後継施設整備事業は、スケジュールどおり地質調査の実施及び基本設計の作成を行った。</p> | |
| <p>事業の効果</p> | |
| <p>アイヌ伝統文化の体験プログラムの提供により、児童・生徒がアイヌの歴史や伝統文化について理解を深めることにつながった(来訪:6,298人、出前:4,625人)。</p> <p>アイヌ高齢者の知識・経験を記録として整理・公開することで、アイヌ民族の文化・伝承活動の活用につなげることができた。</p> <p>共同利用館後継施設整備事業については、地質調査及び基本設計を完了し、後継施設の整備を着実に進めている状況。</p> | |

3. 今後の方針等

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・各種体験事業については、幅広い世代の興味・関心を喚起し参加につなげるため、体験内容や実施会場の見直しを継続的に行い、裾野の拡大を図るとともに、より中長期的な視点でアイヌの文化継承の担い手を育成するための事業を実施する。 ・札幌市アイヌ文化交流センターについては、設備更新や庭園のリニューアル整備を進め、施設全体の魅力向上を図ることで、来館者数の増加及び満足度の向上を目指す。 ・以上により、「アイヌ民族の誇りが尊重されるまちの実現」に向け、アイヌ文化に対する理解と関心の一層の促進を図る。 |
|---|